

令和4年(2022年)5月30日

西宮市議会議長 草加 智清 様

教育こども常任委員会

委員長 菅野 雅一

### 教育こども常任委員会施策研究テーマについて(報告)

本委員会では、令和3年7月19日開催の委員会において、「子供の体力・運動能力について」を年間の施策研究テーマと定め、調査・研究をしまりましたので、御報告申し上げます。

#### 1 子供の体力・運動能力について

令和3年8月3日、令和3年8月17日、令和3年9月13日、令和3年11月2日、令和3年12月10日、令和4年1月21日、令和4年3月3日、令和4年4月15日、令和4年5月9日及び令和4年5月30日に委員会を開催し、市当局より、本市の現在の取組状況や課題等の説明を聴取するとともに、質疑、委員間協議等を行い、意見要望等を伝えました。

令和3年10月21日及び令和3年10月22日には、勉強会を開催し、WEB会議形式により、大分県との勉強会では子供の体力・運動能力について、千代田区との勉強会では子供の遊び場推進について調査を行いました。また、本市学校教育課指導主事をお招きした勉強会では、子供の体力・運動能力に関する西宮市の取組について調査を行いました。

当該施策研究テーマに対する各委員の個別意見は別紙のとおりです。

以 上

施策研究テーマ

子供の体力・運動能力について

提言書

教育こども常任委員会

(令和4年5月30日)

## **菅野 雅一 委員長**

### **【体力・運動能力の向上策について】**

子供の体力・運動能力についての大きな問題の一つは、子供たちの間で体力・運動能力の二極化が生じていることだ。満遍なく体を動かし、体力・運動能力を向上させ、健康な体をつくることが大切だ。そのため、体育の授業を通じて運動の大切さや楽しさを学び、生涯にわたって運動に親しむ習慣を身につけてもらう取り組みを進めていただきたい。体力づくりに関するリーフレットを作成・配布し、授業での活用や運動習慣の定着を図る取り組みを進めており、これについては評価したい。

けがをしないように段階的に学習を進めていくことも大切だ。小連体や中連体の練習では、タワーやピラミッドではなく、倒立でけがをする子供が多かったと聞いている。手で体重をどう支えるかなどを小学校低学年から教えていただきたい。

運動に苦手意識のある子供には、スポーツは単に記録を競い合うことだけが目的でないことを伝えてほしい。技能については、「できる」だけでなく、「わかる」ことも体育の大切な要素だ。先生方には、児童・生徒一人ひとりに合わせた適切な指導や支援をお願いしたい。

### **【外遊びの環境づくりについて】**

子供の外遊びの環境づくりにおいて公園の役割は大きい。公園は防災や市民のレクリエーションなどの多様な役割を担っており、子供たちに遊び場を提供することも重要な役割だ。地域が公園の環境づくりに積極的に参画することはとても大切だ。

保護者は清掃が行き届かず、地域の人たちの目が届かない公園では子供たちを遊ばせたくないからだ。公園の運営はハード面も必要だが、ソフト面も大切だ。地域の人たちが積極的に清掃活動をし、常に地域の人たちがいる公園では子供たちは安心して遊べる。そのような公園の環境づくりを進めることが子供たちに外遊びの機会を増やし、子供の体力・運動能力の向上に資すると考える。

地域の人たちが積極的に関与し、子供たちが外遊びをできる機会を増やして子供の体力・運動能力の向上に資する公園づくりを市として進めていただきたい。

### **【ICTとの付き合い方について】**

GIGAスクール構想が始まり、各校で体育の授業や部活動でのICT活用が進んでいる。例えば、体育の授業のマットや跳び箱で各児童の試技を撮影して、

その場で児童に確認させて修正するためにタブレット端末を利用している。バスケットボールのミーティングでは、以前は一つの作戦盤にみんなが顔を合わせて見ながら話し合っていた。今は3密回避もあって、各生徒のタブレット端末で情報を共有しながら作戦を構築している。野球やテニスなどのフォームの確認にもタブレット端末が有効活用されている。その場で撮影して再生することでPDCAサイクルを働かせることができ、すぐにフォームの修正や改善ができるから便利だ。

しかし、GIGAスクール・セカンドパッケージ案のICT活用実践事例集には、体育の授業でのICT活用実践事例が掲載されていない。教育委員会は体育の授業や体育系の部活動でのICT活用実践事例を集め、効果を上げている事例について各学校で情報共有できるように努めるべきだ。

スクリーンタイムの増加が運動時間の減少につながっていることが様々な調査で明らかになっている。ただ、ICTを活用せずに生活することが難しい現状において、適切にICT機器を使用することが重要であり、その方向で児童・生徒を指導するべきだ。

目の保護については、宮っ子アイ・ケア5の普及に努めるべきだ。

## **松田 茂 副委員長**

### **【体力・運動能力の向上策について】**

体力をつけることができれば、免疫力も上がり、やる気や集中力も高くなってくる。健やかな体をつくることはとても大事だ。

乳幼児の段階で運動や遊びを楽しめることができたなら、就学しても楽しく遊べるようになると感じる。

未就学時に体を動かす遊びが楽しいと感じるように、どうしたら楽しく体を動かすかということがとても大事な観点だ。

また少子化により子どもたちの体を動かす遊びに対する価値観が変わったと感じる。

遊べる場所がなくなったことや塾等の習い事が増えて、時間を共有できる仲間が少ない、チームで遊べることができなくなった。

チームで体を動かしておもいきり遊べる場所は、学校の休み時間など限られている。

ある小学校ではドッジボールがはやっていると聞いている。ドッジボールをすると、時間を忘れて、チャイムに気づかないというような状況にもなる。そこ

で、体を動かす時間を長くすることを目的として、少しでも体力向上につながるよう休み時間の時間配分を検討していただきたい。

### 【ICTとの付き合い方について】

eスポーツに限らず、例えばカメラの録画機能を使用して、跳んだり、逆上がりをしている状態などを客観的に自分で見て自己理解を深めることが大切だ。そして、自分はこうなっている、ああなりたいと思っている想像と実際の自分とのギャップをどのように埋めていくのかを考えることが自己理解を高める。こうした取り組みにICTを使うことはとても大事だ。

## 江良 健太郎 委員

### 【体力・運動能力の向上策について】

運動能力のテストの結果だけを見たら、西宮市は全国で少し劣っている部分があるが、全国平均を上回る能力の高い子供は必ずいる。一概に全部が全部こうしなければいけないということではない。結局は運動が苦手とか勉強しているほうが好きという子供が生活上、困らないぐらいの体力をつけ、けがをしなかったり、車が後ろから来たときにさっと反応できる運動能力を身につけてもらうことが大切だ。そういうことすらもできない子供が増えている現状が問題だ。

### 【外遊びの環境づくりについて】

サッカーをはじめ、球技ができない公園が増えているから、放課後キッズを有効活用して、運動場で球技を楽しめる環境づくりを進めてほしい。サッカーや野球を上達したいと思う子供はクラブチームや野球チームに所属する。遊びの延長で色んなスポーツを経験したい子供たちのための環境づくりは行政が担っていかなければならない。

### 【ICTとの付き合い方について】

GIGAスクール構想で1人1台のタブレット端末を貸与されたから、体育の授業で取り入れられる。体力向上の面から、どのように捉えるかについては難しいところがあるが、マット運動でも前転や側転を撮影してチェックすることで上達できる可能性は大きい。体育教員の中にもICTを苦手にする先生もいるかもしれないが、そういう先生たちもICTに習熟していただいて体育の授業で活用していくべきだ。

## かみたに ゆみ 委員

### 【体力・運動能力の向上策について】

今回の施策研究テーマを通じて、そもそも体力とは何かというところから調べた。体力を鍛えることが気力や意欲、精神的なストレスに対する強さや思いやりの心を育てる。こうした行動の全てが子供の成長に関わってくる大事なことであるということを勉強させていただいた。

施策研究テーマに関する勉強会の中で、講師が「そもそも運動が好きでない子供は自分で運動する機会を持つとしない。だから、運動が嫌いな子供が運動できるような環境に持っていくことが大切」という趣旨を話された。私も自分自身が運動が嫌いなので、「体育」と聞くだけで「嫌」と思ってしまう。

体育の授業でいかに子供が楽しく体力や運動能力に関わることができるのかについて考えた。今、中学校では体育の授業にダンスがあったり、小学校でも表現運動があると聞いている。例えば、「運動」という言葉に抵抗感があったり、「この動作をしてここの筋肉を鍛えましょう」と言われても、違和感をもつ子供の中にも、音楽は好きと思う子供はいると思う。

だから、音楽からダンスなどにつなげたりすることが大切だ。例えば、タンバリンを持って鳴らすだけでも、握力の向上になる。和太鼓やドラムセットの演奏やマーチングバンドの活動を通じて体力の向上を図ることができる。スポーツや運動を主眼とするだけではなく、音楽を楽しみながら体力の向上に資するような取り組みが効果をあげるのではないかと考える。

みやっこ体力向上事業の中にも、トップアスリートによる出前授業などがある。これも運動が好きな子供やトップアスリートに興味がある子は魅力的に思うが、運動が好きではない子供はトップアスリートが来ても魅力的には思わない。

子供たちがダンスからスポーツにつなげたり、歌うことで腹筋や背筋を鍛え、どうしたら大きな声を出せるのかについて興味を持つようになったら、素晴らしいと思う。出前授業に関しても、スポーツだけにこだわらずに、音楽やダンスを含めた大きな視点で見えていただきたい。

### 【外遊びの環境づくりについて】

外遊びの環境づくりで大切なことは遊具が充実していることだと考える。外で遊ぶ子供たちが少なくなっているという話を聞くが、家の中と外で比べたときにどちらが魅力的かと考えると、多分、みんなが家の中でゲームをする方を選択するのではないか。

子供は外に行って楽しいと思えたら、自分から外に出かけるようになる。安全

な遊具の充実をはじめ、千代田区の取り組みのように、みんなでボール遊びをする企画や、見守りのある中でボール遊びができるような環境を整えていくことができればと思う。

今、いろんなところがバリアフリーにされているが、山口町の有馬川緑道では、一部舗装されていない区間があって、そこは土でこぼこ道だ。しかし、でこぼこ道で大地を踏みしめて、こけそうになりながら歩くこともとても大事だと思う。

子供たちが外遊びをしたくなる環境をつくったり、「外に出ていこう」とか「外にはこんな楽しみがある」と思ってもらえるような意識づけが大切だ。草が生えているのを見ながら、川の流れを聞きながら、山の風景を眺めながら、春の花や夏の花が好きになったり、関心を寄せるワクワク感を子供たちにもたせてあげたい。子供たちがそんな感覚を持ちながら外に出かけていきたいと思える環境をつくるのが大事だと思う。

### 【ICTとの付き合い方について】

人と交わるのが苦手な子供もいる。そんな子供にとってはICTの活用で、無理に人と交流して何か運動しましょうと強制するのは良くない。ICTを活用することで、運動が苦手な、あるいは人と交わるのが苦手な子供が運動を楽しめるようにつなげていく工夫をすべきだ。家でもテレビゲームで楽しく運動ができるようなICTの活用を進めていただきたい。

## 坂上 明 委員

### 【体力・運動能力の向上策について】【外遊びの環境づくりについて】

「体力・運動能力の向上策について」と「外遊びの環境づくりについて」をトータル的に提言したい。

「キャッチボールが出来ない子供」「自転車に乗れない子供」…。

現代の子供の体力低下・運動能力低下を語る上での象徴的な事である。

公園でのボール遊びは禁止され、街中で自転車に乗る練習をしていたら「危険だ」と叱られ、子供達だけで出かけようものなら、それこそ「危ない！」と注意される昨今である。

子供は、本来外遊びを通じて体力や運動能力を身につけ、「自分達のルール」をも築き成長するものだが、子供の体力低下・運動能力低下という我が国の将来の国力にも拘わる重大問題は、子供達が今置かれている環境が大きな原因である事を今こそ再認識し手を打つべきである。併せて、子供達の生活習慣はコロナ

禍で大きく変わり、外遊びが制約を受ける中で、スマートフォンなどのメディア機器に触れる時間が増え、遊びやスポーツで身体を動かす時間がより少なくなり、心身への影響が懸念され、大人が目配りがより必要である。

外遊びの重要性を鑑み、今本市が推進している放課後キッズ事業を一層充実させ、また「今の子供達にとって、体育の時間が唯一の体力運動能力向上の場である。」という意識の下、本年度から正式に導入された高学年での教科担任制で、この重大問題に対する対策のメイン施策として、体育の授業で体育の専科の教師、「スポーツの得意」な教師が、身体を動かす事やスポーツの楽しさや喜びを子供達に味わわせる取り組みを、“危機感”をもって是非進めて頂きたい。

今後の本市の画期的な施策の構築に心より期待する。

## 佐藤 みち子 委員

### 【体力・運動能力の向上策について】

子供の体力・運動能力の向上を考えるうえで、その土台となる乳幼児期の過ごし方がとても大事であると考えます。保育所のゼロ歳児のほふく室は1人当たり3.3平米だが、1歳児以上は1.98平米になっており、ゼロ歳児だけが広がっているのは、部屋の中で十分にはいはいができる環境を整えるということである。

今、西宮市ではマンションの一室等に保育室があるが当然、園庭がなく外で動き回ることができない。また、認可保育所でも園庭のない保育所もあるし園庭がとても狭い。それでも最低基準は満たしている。

反対に、公立保育所の園庭はとても広い。運動会ができるぐらい広い。最低基準以上の園庭を確保しているのが公立の保育所だ。子どもはそこで十分に走り回れる。夏はプール遊び等、水や土に触れるなどの環境は乳幼児にとってとても大事で、遊びの中で体力や運動能力を養うことができる。子どもには最善の環境を用意するのは行政や政治の責任である。

今の日本の小学生の教育環境について言えば、学校教育が「学ぶ」ということに重点を置かれて、「遊ぶ」ということがほとんどないがしろにされている。遊ぶことや多彩な文化に触れることが子どもにとってはとても大事である。

学習塾に行くなど、放課後に思い切り友達と遊ぶ経験がない。乳幼児や小学生にとっては、「遊び」の中で心の成長・体力が付き、運動能力の向上にもつながると考える。子どもの「遊び」をどのように保障していくのか喫緊の課題である。



### 【外遊びの環境づくりについて】

空間、時間、仲間の「三つの間」が喪失していると言われたのが1976年、今からもう46年前のことだ。50年近く日本では、このことを改善することなく置き去りにしてきて今に至っている。

今となっては、放課後キッズや学童保育が子どもたちにとって三つの間を体験できる最後のとりでではないかと思う。

学童保育について言えば、うちの娘や息子が行っていた何十年も前の時代は学童保育に行きながら、近くの公園のどこに行ってもいいと先生が言われていた。(昨今は、子どもをめぐる様々な事件があり自由にいけない)だから、地域の公園で遊び回ったりしていた。うちの息子はどこかからマットレスを拾ってきて、団地の階段でマットの上に友達と何人か乗って滑って遊んでいて、地域の人に見つかって怒られたりした。そんな中で危ないことやってはいけないことを学んだのではないか。

今の子どもは集団での遊びを知らない。だから、放課後キッズにしても、遊びを見守るだけの人ではなくて、遊びを組織したり、指導する人が必要だと思う。

我を忘れて遊びに没頭した経験が大人になったときに生きてくるのではないか。放課後キッズや学童保育は、何よりも子どもの「遊び」の環境づくりとして大事にしないといけない。

### 田中 あきよ 委員

#### 【体力・運動能力の向上策について】

子供の体力・運動能力の向上については遊びの観点がとても大切だ。西宮市幼児教育・保育ビジョンの中でも、遊びの大切さについて述べられている。これが小学校に入ると、いきなり、ほぼ1日中、座って勉強することになる。体育の時間だけ、少し体を動かす、休み時間だけ動かすというようになってしまうのは非常にもったいない。だから、小学校低学年の間は幼児教育・保育ビジョンを引き継ぐぐらいの形で、遊びを通して体力をつけていくことが大切だと考える。

成長とともに運動を本格的に始める子供もいるし、文化面での活動に進む子供もいて、さらに体力・運動能力については差が出てくる。特に、中学生では、体育系の部活動をする子供とそれ以外の子供とでは、毎日の運動量が全く違うため、差が大きくなる。その中で、運動部に入っていない子供たちにとっては、学校の登下校だけがほとんど唯一の運動というケースも出てくる。こうした状況の中での体育の授業は、最低限意識を持って体を動かすというところで重要になる。

その貴重な体育の授業が根性論にならないように、運動が苦手な子供たちも想定した授業づくりをし、全ての子供たちが興味を持てる内容にしていきたい。

障害のある子供たちにとって、体育の授業は運動能力プラス体力を使うという面から大きな課題があるが、通常のクラスの子供たちと一緒に体育の授業を受けて楽しめる内容づくり、環境づくりを進めてほしい。

2年間以上となったコロナ禍の中で水泳の授業が全くされていない現状について深刻に受け止めている。以前は服を着たまま泳ぐ着衣泳という授業内容があった。服を着たまま池などにはまったときにどれだけ大変かというのを経験することが目的だが、いつの頃からかされなくなった。この2年間、水泳の授業をおこなわれなかった影響がどのように出てくるのかが心配だ。

約2年前のコロナ禍で休校になった後に学校を再開して部活動が始まった日に、骨折の子供が多くて整形外科が混んだという話がある。学びと同時に体を動かす環境を持続させることがとても大事である。

学校に行けない子供たちにとっても、体力維持は大きな課題だ。例えば、ICTを使って体を動かす指導をすることを検討していただきたい。運動や体育が苦手な子供でもピラティスやヨガ、ダンスなどに興味があったりするケースがあることから、様々な工夫をして子供の体力・運動能力の向上を図る必要がある。

### 【外遊びの環境づくりについて】

外遊びの環境づくりについては放課後キッズに期待をしている。学校が遊び場になれば、親子共々安心して遊べる場所になる。それによって外に出ていきやすくなると思う。

また、地域の公園の利用をもっと考えていきたい。例えば、バリアフリーになっていない公園でも、周りの人たちがこの子はここが不便に感じているだろうと配慮したり、この人は不便だから入れないだろうなどと理解し合えば、助け合うこともでき、インクルーシブの場にもなり得る。そのような期待も込めて、公園の利用をもっと考えていけたらと思う。

### 【ICTとの付き合い方について】

ゲームやユーチューブを居場所に行っている子供が多く、学校には行っているが、放課後に家に帰ってずっとユーチューブやゲームをしていると悩んでいる保護者がいる。子供たちはそこで世界をつくっているのに、それがなくなると孤立してしまうという問題がある。体力の面で考えると、その時間、動くか動かないかで大きな問題はあると思う。しかし、無理に大人の意見を押しつけるのではなく、子どもと一緒にICTとの付き合い方を検討するのが良いと考える。視力

の問題については、以前から視力の低下や、眼鏡をかけている子供が増えたという問題はあった。ゲームやユーチューブの隆盛よりももっと以前からの問題であり、これだけが原因ではないと考える。

## **山田 ますと 委員**

### **【体力・運動能力の向上策について】**

一昔前の学校では、昼休みだけでなく授業と授業の間のわずかな時間でも教室の外に飛び出して友達と校庭や運動場に出てボール当てをしたり、ドッジボールをしたり夢中になって遊んだ。今は時代も違い同じようにはいかない。

体力・運動能力の向上策については、体育の授業だけでなく、登下校などの徒歩通学や校舎階段の上り下りなど、日常の学校生活の中でも意識をすれば体力向上に繋げていける。「身体を鍛える、体力をつける、運動能力を高める」そのための教育的指導にも心がけて頂きたい。

### **【外遊びの環境づくりについて】**

かつては、外遊びを通して年長のお兄さんやお姉さんらと一緒に遊ぶ楽しさがあった。空き地であろうが、雑木林であろうが、山であろうが、どこでも自由に遊べた。外遊びの良い点は、そこにあったと思う。

当時とは違って公園はボール遊びやサッカーなど禁止されていることもあり、事故や事件に巻き込まれる不安や恐れもなく自由に遊べる空き地などの適当な場所もない。

なので、行政として取組む場合は、西宮市が取組んでいる学校の校庭・グラウンドを開放した「放課後キッズルーム事業」をさらに工夫し外遊びの疑似環境を創るしかないと思う。

しかし、仮に「あれとこれはだめ！それ以外は、ここで自由に遊んでもいいよ」と決めたとしても本来の外遊びには近づけない。

外で遊ぶ楽しさや面白さの醍醐味は、何よりも子どもたちが自由な発想から自分たちが楽しめるルールや環境を創り出すことだ。

サン＝テグジュペリの『星の王子さま』に「大人は、誰も、はじめは子どもだった。しかし、そのことを忘れずにいる大人はいくらもない」との言葉がある。

試行錯誤を繰り返しながら、放課後キッズルーム事業が「遊びの楽しさが体感できる子供たちの自由な発想から創り出す外遊びの場」になることを期待したい。

### 【ICTとの付き合い方について】

ICT教育と体力・運動能力の向上とを直接結び付けて考えることは難しいと思う。しかし、スポーツの定義も広くなり、身体運動だけではなく、「eスポーツ」と言ってコンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える考えも生まれてきた。

近い将来、「eスポーツ」がさらに技術的に進歩し疑似スポーツとして社会が広く受入れる日が来ると思う。

体を動かしたくても動かせない人もいるし、スポーツが苦手だという子供たちもいる。学校教育でも、eスポーツを正しく理解し認識していくことも必要だと考える。

以上